

地域づくりは人づくりから

～地域づくり組織を核としたネットの構築をめざして～ 【山口市 秋穂中学校区】

地域の概要

山口市の南部、瀬戸内海沿岸に位置する秋穂地域はクルマエビ養殖発祥の地として知られ、毎年8月には「えび狩り世界選手権」が開催され、多くの参加者による熱い戦いが繰り広げられています。

また、弘法大師の命日にあたる、旧暦の3月20日、21日（平成23年は4月22日、23日）には秋穂八十

八ヶ所霊場において「お大師まいり」が行われるなど、観光と歴史の資源を数多く有する地域としてにぎわっています。

人 口	7,308人	
世 帯 数	2,947世帯	
対象校及び児童・生徒数	秋穂中学校	188人
	秋穂小学校	220人
	大海小学校	127人

組織の内容

秋穂地域においては、平成21年度まで派遣社会教育主事が配置され、地域と学校とのコーディネーター役を果たしてきました。その取組が礎となり、現在も家庭教育や人権学習等の講座を地域と学校が連携して実施するなど、地域ぐるみで教育を推進する基盤がしっかり整っています。

加えて放課後や休日の学びの場や体験の場となる三世代交流施設「秋穂コミュニティセンター」では、秋穂にこにこクラブ（母親クラブ）や伝承教室、おはなし玉手箱（絵本の読み聞かせ）、食生活改善推進協議会等、多くの団体の協力のもと、大変有意義な活動が展開されています。

平成20年度には、地域で「子どもの生活リズム向上のための調査研究」（文部科学省事業）を受託、「絵本とおやすみ、いい夢たっぷりプロジェクト」実行委員会が組織され、幼稚園や保育園、小学校と連携を図りながら地域ぐるみで子育てに取り組む体制が強化され、住民の意識もますます高まりをみせています。

平成21年度、山口市では教育委員会所管であった公民館が市長部局所管の地域交流センターとなり、同時に、各地域にて住民が主体的な地域づくりを進めるための組織として、地域づくり協議会が立ち上げられました。

秋穂地域で33の団体から構成される「たのSEA秋穂づくり協議会」が中核となり、これからの地域づくりの舵取りを担っていくこととなりますが、その中でも青少年育成活動を目標に掲げる「ふれあい部会」を中心に、地域づくり事業の一つとして「地域協育ネット」の構築をめざしていくよう組織内部の共通理解を図り、更に協力団体の加入を呼びかけています。

今まで、様々な角度から進められてきた学校教育支援や家庭教育支援を、住民の共通認識のもと、地域全体で押し進めていくためには、まずはしっかりと組織づくりを進めていくことが大切であり、現在も継続した働きかけを進めています。

たのSEA秋穂づくり協議会組織図

総 会				秋穂地域交流センター センター長・地域担当職員	
役 員 会 会長(1)・副会長(1) まちづくり部会(部会長、副部会長、幹事)・ふれあい部会(部会長、副部会長、幹事) 自治委員会(委員長、副委員長)・広報委員会(委員長、副委員長) 監事(2) 事務局長、書記・会計					
自治委員会 委員長① 副委員長②	運営委員会：委員長(1)、副委員長(1)			広報委員会 委員長① 副委員長②	
	まちづくり部会 部会長(1)、副部会長(1)		ふれあい部会 部会長(1)、副部会長(1)		
	振興 幹事(1)	安心・安全 幹事(1)	文化・健康 幹事(1)		福祉・青少年 幹事(1)
	山口中央農協秋穂支所・山口市社会福祉協議会秋穂支部・コミュニティクシーあいお運営協議会・あいお盛上げ隊・小さな親切運動秋穂支部・山口県漁協大海支店・山口県漁協秋穂支店・山口県央商工会秋穂支所・秋穂地域環境衛生連絡協議会・秋穂区域長会・あいおシルバーの会・山口市秋穂地区生活改善グループ連絡協議会	防犯パトロールおおみ・防犯パトロールあいお・秋穂地区民生委員児童委員協議会・山口保護区保護司会吉敷支部秋穂分会・山口南交通安全協会秋穂支部・山口市消防団秋穂方面隊・山口市秋穂防犯対策協議会・山口南警察署防犯指導員連絡協議会	小林和作先生頌徳会・秋穂伝承グループ・あいお文化倶楽部・秋穂スポーツ少年団・図書館と友だちの会・秋穂・山口市老人クラブ連合会秋穂支部・山口市体育協会秋穂支部		山口市子ども育成連絡協議会秋穂支部・絵本とおやすみ、いい夢たっぷりプロジェクト実行委員会・秋穂身体障がい者福祉更生会・秋穂青年団・大海小学校・秋穂小学校・秋穂中学校・大海小学校校PTA・秋穂中学校PTA・家庭介護の会・秋穂ふくしボランティア連合会・山口市青少年健全育成市民会議秋穂支部・秋穂地区人権教育推進協議会・山口市母子保健推進協議会秋穂支部
自治会(16)		自治会(16)			

主な活動の紹介

秋穂地域においては、現在までのところコーディネーターの配置はできていませんが、多くの地域住民が学校の教育活動や行事に参加する等、連携及び支援の体制はすでに整いつつあります。

今年度に関しても、11月末までに延べ300名近いボランティアが学習活動や環境美化活動または図書館の整理補助活動等の支援に携わっており、併せてスクールガードとして子どもたちの安全確保にあたられている地域住民も多数います。

和洋女子大学教授



鈴木みゆき先生の講演



たはらクリニック

田原卓浩先生の講演

また、推進母体である「たのSEA秋穂づくり協議会」では、「地域協育ネット」構築に向けての継続的な話し合いが進められるとともに、「絵本とおやすみ、いい夢たっぷりプロジェクト」実行委員会が中心となり、園や小・中学校と連携を図りながら、生活習慣の確立や食育の推進等をテーマとした研修会を開催するなど、地域住民の意識高揚をめざした取組を展開しています。

- 「地域協育ネット」構築に向けての働きかけ（事務局）
 - ・地域交流センター職員、「たのSEA秋穂づくり協議会」役員との話し合い
 - ・「絵本とおやすみ、いい夢たっぷりプロジェクト実行委員会」との話し合い
 - ・各校校長（秋穂中学校、秋穂小学校、大海小学校）との話し合い
 - ・「たのSEA秋穂づくり協議会」内での話し合い

課題と今後の取組

これから具体的かつ積極的な取組を進めていくに当たって、次の3点を課題とし、対応を考えていきます。

(1) 人材の育成・確保

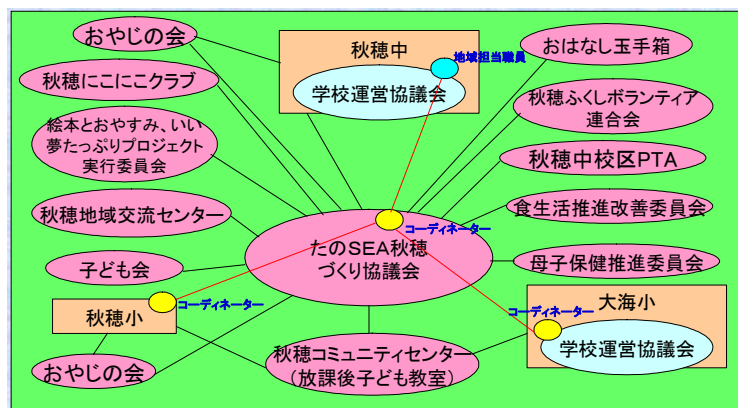
コーディネーターやボランティア等、取組には様々な人材を必要としますが、特に行政サイドから取組を支援し、時には引っ張っていく人材の育成・確保をしていくことが大切です。

(2) 部局間の連携体制づくり

地域の連携体制をつくる前に、学校教育関係はもちろんのこと、福祉関係、地域づくり関係等、行政サイドの連携体制を十分に作っておく必要があります。

(3) 必要経費の確保

「地域協育ネット」を継続的に機能させるためには、コーディネーター謝金をはじめ必要経費をいかに確保するかも重要となります。このことについて、補助金の活用や自主財源の工夫等、より良い方向に進むよう検討していく必要があると考えています。



秋穂中学校区地域協育ネット構想図